

危険な年

The Year of Living Dangerously



■リンダ・ハント

本年度アカデミー賞助演女優賞受賞

ニューヨーク映画批評家協会賞
ロサンゼルス映画批評家協会賞

全米映画評論家協会賞

全米マスコミ界、嵐の激讚!

あなたを燃えつきさせる 忘れがたい傑作! <NBC-TV>
すべてを描きつくしたホットなストーリー! <ニューヨーカー>
本年度最高のエキゾチックで ロマンチックなドラマ! <USマガジン>

男は動乱の
国へ来た。
女はそこから出
ようとしていた。

異郷の地で宿命の愛は炎となって絡みあう……



製作 ジェームズ・マッケルロイ
監督 ビーター・ウェア
脚本 ビーター・ウェア
デビッド・ワイリアムスン
クリストファー・J・コッチ
アラン・ジャンプ
原作 クリストファー・J・コッチ
撮影 ラッセル・ポイド
音楽 モーリス・ジャール

メル・ギブソン
シガニー・ウィーバー
リンダ・ハント
マイケル・マーフィー

カラー作品
MGM/UA映画
CIC配給



危険な年

製作 ジェームズ・マッケルロイ
音楽 モーリス・ジャール
監督 ピーター・ウェアー

ABC特派員(ガイ・ハミルトン)……………メル・ギブソン
カメラマン(クワン)……………リンダ・ハント
大使館秘書(ジル・プライアント)……………シガニー・ウィーバー
アメリカ特派員(ビート・カーチス)……………マイケル・マーフィー

1965年、スカルノ政権末期。右翼と左翼が一触即発の対立をする、不穏な政治的状况下のインドネシアが舞台。
オーストラリアから特派員として赴任した新進気鋭のジャーナリストと、2週間後には帰国

することになっているイギリス大使館の美人秘書——ふたりは動乱の真只中で、燃えるような恋に落ちていく……。
問題の1965年以前のインドネシアは、大統領・スカルノのまさに独裁政権で、彼は建国の父として君臨していた。政治的にはアメリカ寄りの政策をとり、プライベートでは何人もの妻と愛人を持ち、名譽や権力を欲し、いまにして、自らを「神王(GOD-KING)」と宣言した。
国民の大部分は素朴で教育もなく、トレード・マークの赤いトルコ帽をかぶったスカルノを、無条件に崇拜させられていたのであった。そしてこの神王は、あらゆる所から金を集めて湯水のごとく浪費した末、没落の運命をたどったのである。

このような時代背景をもとに、映画は当時の状況をジャーナリストの視点でリアルに描写しながら、一方では不安定な国情そのままのスリリングでエロチックなラブ・ストーリーを展開させる。
『危険な年』の原題となつた『The Year of Living Dangerously』とは、当時インドネシアが企んでた、打倒マレーシアの動きを示すために、スカルノ自身が作り出した言葉である。だが、この動きによって結集した勢力に、自分が打倒されることになろうとは……。
『The Year of Living Dangerously』は、皮肉にもスカルノ自身の運命のプレリウドとなつたわけである。
日本ではこの作品は、83年度の『ぴあフィルム・フェスティバル』で上映され、静かな話題になった。
監督のピーター・ウェアーは、オーストラ

リア映画界のニュー・ウェーブとも言うべき存在で、『誓い』(81・82年度マニラ映画祭特別賞)で、世界の目をオーストラリア映画に注目させた功績は大である。この成功がもとで今回の作品は、ハリウッドの完全出資で世界配給となり、彼はインタナショナル・サクセスの切符を手にしたと言えるだろう。
そして脚本のデビッド・ウイリアムソンを初めとして、撮影のラッセル・ポイド、美術のハーバート・ピントーが、『誓い』の時そのままのすばらしいチーム・ワークをみせている。
さらに『アラビアのロレンス』(63)、『ドクトル・ジバゴ』(66)で、アカデミー賞を受賞した巨匠、モーリス・ジャールが音楽を担当し、エキゾチックで官能的なアレレンジとオーケストレーションで、ドラマを盛りあげている。
野性と知性の両方の魅力を兼ね備えた主演のメル・ギブソンは、『マッドマックス』(79)、『マッドマックス2』(81)で、一躍有名になった。そして今回の監督でもあるピーター・ウェアーの『誓い』に主演したことによって、世界のマーケットで通用するほどの成長を遂げた。84年カンヌ映画祭の最後を飾った大作『ザ・バウンティ』では主役を演じ、絶賛を浴びている。エロール・フリッ、ピーター・フィンチ以来、徐々にオーストラリアが生んだ国際級のスターといえよう。

共演のシガニー・ウィーバーは『アニー・ホール』(78)が映画初出演、『エイリアン』(79)で注目され、『目撃者』(81)では主役の理知的な大人の女性を演じている。主役の二人に絡むミステリアスなカメラマンを演じているのは、欧亜系混血のリンダ・ハント。役の上では男性だが、実はリンダはベテランの舞台女優。145cmの小さな身体を生かして、みごとに男性を演じ、彼女(彼)はこの作品で84年度のアカデミー助演女優賞他に輝やいている。
なおロケーションは、マニラの回教徒地区とシドニーで、6千人ものエキストラを動員して行なわれた。

特別鑑賞券1200円(一般1500円(の処) 学生1300円)発売中!

7月14日(日)ロードショー 俳優座シネマテン

PARCO SPACE PART 3

★お問合わせは(442)0438/またはPM8時よりPM11時30分迄は(470)2880へ

8月5日(日)ロードショー

■連日夜10時より開映。但し昼の追加上映は下記の通りです。

★お問い合わせは(477)5858へ

7月15(日)	7月17(火)	18(水)	19(木)	25(水)	26(木)	27(金)
5:30/7:45	夜10時	11:45	2:00	夜10時		

連日	12:45	3:00	5:15	7:30
----	-------	------	------	------